農林水産省輸出・国際局新興地域グループ　御中

令和５年度開発途上国におけるフードバリューチェーン構築のための人材育成委託事業（アフリカにおける農業者グループ体制強化研修）

事業成果報告書

2024 年 3 月

日本植物燃料株式会社

目次

農林水産省　令和5年度開発途上国におけるフードバリューチェーン構築のための人材育成委託事業（モザンビークにおける農業者グループへの組織体制強化研修）　報告書

1　事業の背景・目的

2　事業の概要

3.　対象団体と訪日研修生の選考

4.　国内研修

(1)　研修内容・スケジュール・実施体制

(2)　研修の様子

(3)　研修生の所感

5.　海外研修

(1)　研修内容・研修スケジュール・実施体制

(2)　研修の様子

(3)　研修生の所感

6.　事業の総括

付録

1　事業の背景・目的

事業の背景

開発途上国は急速な経済成長を遂げているが、先進国に比べ第一次産業従事者の割合が高く、農林水産業を含めた食産業が重要な役割を果たしている。一方で、我が国は人口減少や高齢化の進展により、食市場の規模も縮小する中、一方で世界人口の増加と所得の向上等の要因により、世界の食市場は拡大を続けている状況。こうした中、我が国の食産業にとって、開発途上国におけるフードバリューチェーン（FVC）構築への参画は、巨大な市場を獲得する可能性を持つ大きなビジネスチャンスとなり得る。

特に、アフリカ地域の開発途上国では、多くの農業者がマーケットを意識した戦略的な生産を実施しておらず、農協等の組織化も進んでいないことから、市場における農家の販売力が弱い。更に、近年は気候変動に起因する洪水、蝗害、新型コロナウイルスの影響により農家所得が減少しており、組織化を通じた農家所得向上が急務となっている、といった課題がある。

開発協力大綱（平成 27 年閣議決定）やアフリカ開発会議（TICAD7：令和元年8月開催）の横浜行動計画等において、開発途上国の食産業の発展に貢献するため、FVC の構築について支援することとしており、アフリカビジネス協議会農業 WG におけるアフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想（https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000512597.pdf ）では、農家の組織化を推進していくこととされている。

事業の目的

このため、本事業では、アフリカ地域の開発途上国における FVC **構築レベルの実態**に応じて、**モザンビークの農業者グループを対象に、組織体制強化に関する研修・セミナーを総合的に実施し**、アフリカ地域の開発途上国における**食産業の発展・体質強化**及び我が国の**食産業の海外展開**に資する環境整備を行うこととした。

2　事業の概要

（1）事業内容

本事業では、アフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想（AIPA）に基づき、デジタル化基盤構築を行っているモザンビークにおいて、**農家グループ等の体制強化のための研修、セミナー**を実施した。研修、セミナーは、**①対象団体のリーダー等を対象とした国内研修（日本）**、及び**②対象団体の構成員等に対して技術移転を行う海外研修（モザンビーク）**の 2 つのパートで構成された。

図

農林水産省（委託先：日本植物燃料株式会社） 対象：モザンビークの農業者グループ （現地農業指導 3 団体＋対象地域農家グループ 2 団体＋アフリカ広域農業指導 2 機関）計 7 名のリーダー 組織体制強化に関する**研修・セミナー**を総合的に実施 ①国内研修（日本）：1 月に 2 週間 ②海外研修（モザンビーク）：2 月に 2 週間	→ アフリカ地域の開発途上国における**食産業の発展・体質強化** → 我が国の食産業の**海外展開**に資する環境整備

（2）対象地域

仕様書に基づき、対象国は**モザンビーク**、対象地域は**ナンプラ州**と設定された。モザンビークは、アフリカ大陸の南東部に位置する国であり、面積約 80 万平方キロメートル（日本の約 2 倍）、人口 3000 万人強（日本の約 4 分の 1）、公用語はポルトガル語である。ナンプラ州は、モザンビークにある 10 州のうちのひとつで、北部の沿岸側に位置し、面積 7.9 万平方キロメートル、人口 570 万人（2017 年）（ともに北海道と同程度の規模）、言語はポルトガル語のほかマクア語が日常的に話される地域である。

対象国（モザンビーク）の基本情報

モザンビーク共和国（Republic of Mozambique）

〇一般事情

面積　79.9 万平方キロメートル（日本の約 2 倍）
人口　約 3,296 万人（2022 年：世銀）
首都　マプト（人口約 112 万人、2017 年：モザンビーク統計局）
民族　マクア族、マコンデ族、ヤオ族、ツォンガ族等
言語　ポルトガル語（公用語）、マクア語、シャンガーナ語、チェワ語、セナ語等
宗教　キリスト教（約 60%）、イスラム教（約 19%）、無宗教（約 14%）等（2017 年：モザンビーク統計局）

〇主要産業

（農林）とうもろこし、砂糖、カシューナッツ、綿花、たばこ、木材
（漁）エビ
（工鉱）アルミニウム、石炭、天然ガス、重砂、貴金属

〇経済

GDP　178 億米ドル（2022 年：世銀）

一人当たり GNI　500 米ドル（2022 年：世銀）

経済成長率　4.1％（2022 年：世銀）

物価上昇率　10.3％（2022 年：世銀）

通貨　メティカル（複数形はメティカイス）

為替レート　1 米ドル＝約 63 メティカイス（2023 年 8 月現在）

〇二国間関係

在留邦人数　141 人（2022 年 10 月現在）

在日当該国人数　144 人（2022 年 12 月現在）

〇略史

1498 年　ヴァスコ・ダ・ガマがモザンビーク島に到達

1544 年　ポルトガルの貿易商人ロレンソ・マルケスがマプト湾周辺を探検

1752 年　ポルトガルによりモザンビーク総督府設置

1898 年　モザンビーク島からロレンソ・マルクス（現マプト）へ遷都

1962 年　モザンビーク解放戦線（FRELIMO、現政府の母体）結成

1975 年 6 月 25 日　独立（マシェル初代大統領）

1986 年 10 月 19 日　マシェル大統領死去、シサノ大統領就任（11 月 6 日）

1992 年 10 月 4 日　モザンビーク包括和平協定署名

1994 年 10 月　大統領・共和国議会選挙、シサノ大統領当選、就任（12 月）

2005 年 2 月　ゲブーザ大統領就任

2015 年 1 月　ニュシ大統領就任

出典：外務省「モザンビーク共和国　基礎データ（令和 5 年 9 月 21 日時点）」より抜粋

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mozambique/data.html

（3）実施スケジュール

本事業では、11 月から 12 月前半にかけて入札・契約手続きがあり、その後、対象団体・研修生の選定と研修準備を進め、1 月に対象団体のリーダーが訪日しての国内研修、2 月にモザンビークでの海外研修を実施した。研修終了後、3 月にかけて研修参加者及び関係者のフォローアップと報告書の作成を行った。

表　事業の全体スケジュール

	2023 年		2024 年		
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
研修生選定		――→			

国内研修準備		―――	→		
国内研修 （日本）			←――→		
海外研修準備		―――	→　――	→	
海外研修 （モザンビーク）				←――→	
報告書作成					――→

※11 月 16 日入札説明会／12 月 1 日入札締切／12 月 13 日開札

（4）実施体制

本事業は、農林水産省の委託事業として日本植物燃料株式会社（NBF）が実施した。再委託先として、アジア農業協同組合振興機関（IDACA）が国内研修の一部を、一般社団法人馬搬振興会が国内研修および海外研修の一部を担当した。

また、事業実施に当たっては、農林水産省予算で実施されている「食産業の戦略的海外展開支援委託事業（本邦企業と連携したアフリカ農村開発モデル実証調査）」、通称 SSC（スモールスマートコミュニティ）事業と連携を図った。

■日本植物燃料株式会社（NBF）

日本植物燃料株式会社は 2000 年創業で、以来バイオマス燃料の研究開発・販売を行ってきた。2012 年にモザンビークに現地法人を設立し、バイオマス燃料の販売網の整備を行うとともに、アフリカにおける電子マネーの普及や農村デジタル化を進めている。同社は、アフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想（AIPA）推進において中心的な役割を担ってきた。事業対象地域であるモザンビーク国ナンプラ州にて事業を運営しており、研修対象の農家や組織とのつながりをすでに持っている強みを持つ。

■一般財団法人アジア農業協同組合振興機関（IDACA）

IDACA は、全国農業協同組合中央会によって、1962 年 4 月に東京で開催した第 1 回アジア農協会議の決議に基づいて、1963 年 7 月に設立された。アジア地域等において農業協同組合の育成・振興を通して各国の農業者の所得向上、農業、地域社会の発展に寄与することを目的として、海外の農協人材育成研修、調査・開発協力等を具体的な事業として行っている。過去、「令和3年度開発途上国におけるフードバリューチェーン構築のための人材育成事業（小規模農業者で組織される農業者団体に対する研修、セミナー）」において、モザンビーク及びセネガルの研修生に対して、オンラインにて日本の農産業や組織化に関する研修を行った実績を有する。

■一般社団法人馬搬振興会（JAPAN HORSE LOGGING ASSOCIATION）

馬搬振興会は農林水産省令和 2 年アフリカ等のフードバリューチェーン課題解決型市場開拓事業においてセネガルで新型馬耕犂の開発や現地での技術指導を受託実施するなどアフリカでの指導経験を有する他、令和 4・5 年に公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会からの受託事業でフランス最古のナショナルスタッドで馬事振興を担っている Le Haras National du Pin と文化技術交流事業を行うなど農林業における畜力活用振興を国際的に実施しておりモザンビーク国からの研修生に技術指導を行う能力を有する。

3　対象団体と訪日研修生の選考

研修の対象団体と対象者について、仕様書上の要件は次の通りであった。

対象国：モザンビーク
対象地域：ナンプラ州
対象団体：
（1）現地で農業指導を行っている農業学校等3団体
（2）対象地域の農家グループ2団体
（3）アフリカで広域に農業者団体の指導を行っている2機関
研修対象者：
（1）国内研修：上記の対象団体から各1名
（2）海外（現地）研修：農家グループ構成員を主とした 100 名程度

これらの要件に基づき、現地での最新状況の調査・調整と、関係者の協議を経て、本事業での研修団体と対象者が選定された。

研修対象者選考の工夫

本事業のねらいのひとつは組織体制強化であるが、モザンビーク国の現在の農協組織は、全国組織であるモザンビーク全国農民連合（UNAC）、UNAC の下部組織として州組織である州農民連合（UPC）、UPC の下部組織として郡組織である郡農民連合（UDC）からなるピラミッド型組織となっている。さらに UNAC は、The Southern African Confederation of Agricultural Unions（SACAU）に所属し、SACAU は Pan African Farmers Organization（PAFO）に所属している。これらの縦軸の組織と農村現場の横軸の組織から、研修生を招聘することで研修効果が根付きかつ広がっていくことを可能とする人員選定を行う。

NBF 社は、これまで日本に留学した多くのモザンビーク人学生と交流してきたが、複数名が農業省に勤務しておりそのうち 2 名がナンプラ州に勤務している。研修生送り出し組織から推奨を受けた個人を選定するに際しては、組織の推奨だけでなくこれまでの人的ネットワークを活用して研修成果の波及を担える人材であるかを精査した。

研修対象者選考の過程と基準

2023 年 11 月から具体的な候補となる対象団体と訪日研修生の情報収集及び打診を始めた。また訪日にあたってのビザ手続きの要件確認や迅速な申請準備を現地日本国大使館の領事班に問合せて進めた。12 月 13 日の開札後、訪日研修のための入国ビザ手続きを行った。

なお、選考および訪日準備の過程においては、いくつかの困難に面したが、それぞれ対応して解決することができた。

◯ ID にかかる困難： 研修生の候補者がパスポートや身分証を保有していないケースが見られた。あるいは身分証を保有していてもその有効期限が切れているケースが見られた。

◯ 連絡手段にかかる困難： スマートフォンを保有していないあるいは壊れている。農村部で通信のための電波がない。特に農繁期であり畑にいると電波が厳しい。通信のクレジットを購入しないとない（普段は節約のためにネットをオフにすることも多い）。

◯ 年末シーズンにかかる困難： 年末のホリデーシーズンが迫っているため、候補者の団体や手続き先における迅速な書類準備や決済が難しいケースがあった。

選考の結果

次の 7 名が訪日研修生として選考された。

#	名前	所属団体・役職	区分
1	Paulina Benjamim Flores MWANGA	IAR (Institute Agrario de Ribaue)・校長	現地で農業指導を行っている団体
2	Horacio Manuel MASSIQUE	CITT (Centro de Investigacao e Transferencia Tecnologias) Angoche・郡代表	現地で農業指導を行っている団体
3	Arestides CRISANTO	ADM (Agro-negocio para o Desenvolvimento de Mocambique, Lda.)・スーパーバイザー	現地で農業指導を行っている団体
4	Costa ESTEVAO	Uniao Provincial de Camponeses (UPC) ・ナンプラ州代表／農家	対象地域の農家グループ
5	Joaquim Lancheque Marques PANELEQUE	FOCAMA (Forum de Camponeses de Mavili)・創設リーダー ／農家／農業資材店経営	対象地域の農家グループ
6	Tiana Paulo CAMPOS	AGRA (The Alliance for a Green Revolution in Africa) Mozambique・ナンプラ州代表	アフリカで広域に農業者団体の指導を行っている機関
7	Cheng CHENG	AGRA (The Alliance for a Green Revolution in Africa) ・本部アジア地域連携担当	アフリカで広域に農業者団体の指導を行っている機関

各メンバーの詳細と選定理由は以下の通りである。

JOAQUIM LANCHEQUE MARQUES PANELEQUE 氏（1969 年生・男性）

FOCAMA
Leader of Agriculture Group / Farmer / Agro-dealer
言語：ポルトガル語、マクワ語
説明：個人で 50ha ほどを耕作する地域農家グループのリーダーで FAO、WFP などのプロジェクト受入れを担った経験を有する。

COSTA ESTEVAO（1967 年生・男性）

UPC Nampula
President of Agriculture Group / Farmer
言語：ポルトガル語、マクワ語
説明：モザンビークの全国農協組織である UNAC のナンプラ支部長　プロサバンナ事業へ反対したリーダーの一人であり、今後日本との関係改善のためのキーマン

ARISTIDES CRISANTO（1984 年生・男性）

ADM,lda.
Supervisor (Agri-business / Extension work)
言語：ポルトガル語、マコンデ語、マクワ語
説明：カーボデルガド州出身。12 年以上 ADM に勤務しプロジェクト実行や農家グループへの栽培技術指導を担当

PAULINA BENJAMIN FLORES MWANGA（1978 年生・女性）

Instituto Agrario de Ribaue (IAR)
Director
言語：ポルトガル語、マクワ語
説明：SSC 事業のカウンターパートである IAR（リバウエ農業学校）の校長代理

HORACIO MASSIQUE（1985 年生・男性）

CITT (Centro de Investigacao e Transferencia Tecnologias) Angoche
Districtal Delegation
言語：ポルトガル語、英語、マクワ語

説明：稲作灌漑技術者としてイタリアと日本の大学で修士号を取得。ナンプラ州の農業技術普及員を指導する立場にある

TIANA CAMPOS（1980 年生・女性）

AGRA (The Alliance for a Green Revolution in Africa) Mozambique
Program Officer / Agronomy Engineer
言語：ポルトガル語、マクワ語、英語
説明：AGRA のナンプラ州に勤務しており、モザンビーク北部地域で AGRA のカウンターパートとのプロジェクト形成および管理を担当している。

CHENG CHENG（1984 年生・男性）

AGRA (The Alliance for a Green Revolution in Africa) HQ
Lead, Asian Partnerships
言語：英語
説明：AGRA 本部においてアジア地域とのパートナーシップを担当している。

4　国内研修

2024 年 1 月、対象団体のリーダー7 名を対象とした 2 週間の国内研修を日本で実施した。帰国後対象団体のメンバーに対し指導を行えるよう人材育成を行った。

（1）研修内容

【仕様書項目】
1）畜力（馬搬・馬耕）技術の有効性
2）日本における農業協同組合活動の基本的な考え方
3）農家が主体となった組織活動、販売・購買事業、信用事業、営農指導、農産加工・6 次産業化の取組等
4）人材育成（教育/コミュニケーション/組合員参加）とリーダーシップ強化の取組）
5）新技術事例（バイオスティミュラント資材を活用した取組等）
【独自提案】
6）農家グループの組織体制強化のために研修参加者が帰国後個別および連携して具体的に取組むことが出来る行動の明確化
7）我が国の食産業の海外展開に資する環境整備のために研修参加者が帰国後個別および連携して具体的に取組むことが出来る行動の明確化

8）農家グループ、モザンビークで農業指導を行っている団体、アフリカ広域で農業指導を行っている団体間での連携強化を継続的なものとするために研修参加者が帰国後個別および連携して具体的に取組むことが出来る行動の明確化
9）畜力利活用技術以前に必要となる畜力を利活用するための基礎
10）AIPA 事業で構築されたデジタル化基盤の利活用
11）令和5年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業の目的共有と連携

国内研修スケジュール

研修期間：2024 年 1 月 9 日～22 日

日付	活動／テーマ	担当／講師	訪日研修生の動き
1 月 5 日（金）	（ナンプラ空港集合／移動）	各自	ナンプラ空港発 →マプト泊
6 日（土）	（移動）	各自	マプト空港発
7 日（日）	研修員来日①（CRISANTO 氏、ESTEVAO 氏、MASSIQUE 氏、PANELEQUE 氏、MWANGA 氏、CAMPOS 氏）	NBF	成田空港着 →町田市
8 日（月・祝）	研修員来日②（CHENG 氏）／自由行動	NBF	成田空港着 →町田市
9 日（火）	オリエンテーション	NBF	町田市
	農協の組織と事業（1）～組織運営、組合員組織	IDACA 千葉	町田市
	ブルキナ大豆事例	星野紀子	町田市
10 日（水）	農協の組織と事業（2）～事業	IDACA 中嶋	町田市
	農協の歴史と発展過程	IDACA 中嶋	町田市
11 日（木）	農産物生産と流通についての考察～飯野農園をとりまく地域の取引先視察（ヤオコー今福店、ファーマーズマーケット、マーケットテラスにて昼食）｜川越市内	IDACA 正能・阿久津	川越市
	農家訪問～農家の経営の実際｜飯野農園	IDACA 正能・阿久津	川越市
12 日（金）	農村金融と農業協同組合の役割	農林中金総合研究所（長谷川晃生）／IDACA 千葉立会	町田市
	地域医療の取り組み	海老澤健太	町田市
13 日（土）	東京8圃場	NBF／太陽油化	所沢市
14 日（日）	自由行動	各自	町田市
15 日（月）	農業協同組合訪問～総合農協の運営と事業	JA かながわ西湘（加藤修）／IDACA 正能・阿久津同行	小田原市 JA かながわ西湘

16 日（火）	農産物流通における農協の役割と地域振興	IDACA 中嶋	町田市
	研修振り返りとまとめ	IDACA 中嶋	町田市
17 日（水）	移動　町田→新潟県柏崎市高柳荻ノ島	NBF	町田市→柏崎市
	畜力基礎、馬体験	馬搬振興会（岩間敬）	柏崎市
18 日（木）	十日町市市場、支援センターあんしん	NBF	十日町市、柏崎市
19 日（金）	移動　高柳→茨城県美浦村	NBF	柏崎市→美浦村
	マイコス（乾田直播）とスガノ講義と馬耕実技体験	スガノ農機	美浦村
20 日（土）	自由行動	各自	都内
21 日（日）	自由行動	各自	都内
22 日（月）	農水省表敬訪問	NBF	都内
	成田空港	NBF	成田空港発
23 日（火）	（移動／ナンプラ空港解散）	各自	マプト空港着 ナンプラ空港着

NBF：日本植物燃料株式会社
IDACA：一般財団法人アジア農業協同組合振興機関

（2）研修の様子

以下、国内研修の内容と研修風景について記載する。

1 月 5 日（金）～8 日（月・祝）

研修生はナンプラ空港に集合し、マプト（一泊）、アディスアベバ、インチョンを経由して日本へ渡航。研修生のうち 2 人は訪日経験あり、他のメンバーは初。

日本に到着後、研修が始まるまでの間に、日本の冬を過ごすための防寒具を購入。
商店街で販売されている豆を見つけ、値段や種類などに関心を寄せる。

1 月 9 日（火）

オリエンテーションとして、研修生の自己紹介と、NBF の活動紹介を行った。
Agroponto については NBF 合田から講義を行った。

IDACA 千葉氏による農協組織と農協事業についての講義

星野紀子氏（ADIMA /ブルキナファソ）からは、ブルキナファソの学校給食と地域栄養改善の一環としての大豆生産事業について事例紹介があった。

1 月 10 日（水）

IDACA 中嶋氏による農協組織・事業と発展の歴史の講義

1 月 11 日（木）

JA 直売所を訪問。価格（値付け）や品質を実際にみて考えるほか、パッケージや加工について説明を受け考える機会となった。

飯野農園では、伝統的な堆肥づくりから出荷までの日本の小規模農家の営農を見学。
飯野氏と伝統的知識の活用や小規模農家の役割など意見交換を活発に行った。

1 月 12 日（金）

農林中金総合研究所長谷川氏の農村金融講義

Afya-manegement innovation 代表の海老澤氏による日本の地域医療の講義。
海老澤氏は国内での遠隔地医療経営や、徳洲会病院のアフリカにおける医療施設支援、新興国での医療教育及び医療人材育成に長年携わってきている。

1 月 13 日（土）

太陽油化／Tokyo8 の圃場を訪問。
微生物資材である Tokyo8 を活用した圃場を訪問、Tokyo8 を使った栽培状況の説明を受けた。青梗菜やネギ栽培のほか、葉物等への使用の様子を見学した。

1 月 15 日（月）

JA かながわ西湖での研修。ここでは作物別部会があり、新規品種の組合員向け普及支援を行っており、直売所で新品種を見学し説明を受けた。こちらの JA では、農地に関する利活用相談を行う不動産部門のほか、JA バンクが併設、また移動店舗車両による、遠隔地のサービスについての説明を受けるなど JA のもつ農業生産者への総合農業
事業の役割についての理解を進める機会となった。

1 月 16 日（火）

IDACA のプログラムの最終日には各研修生の名前の入った修了証を授与された。修了証の授与式のあとは、IDACA・講師・関係者も参加して意見交換を行う交流会を設けて親交を深めた。

1 月 17 日（水）

新潟に移動後、馬搬振興会岩間氏による畜力活用の基礎講義を行った。利活用での基本的な動作であるロングレーン、引き馬、騎乗などを行ない、研修生も実際にそれらを体験し馬の操作を行った。ほとんどの研修生は初めて行った。

1 月 18 日（木）

十日町市の卸売市場で魚の競りを見学した。モザンビークで取引は相対で行われているため研修生は値決めの概念を形成する上で貴重な体験となった。

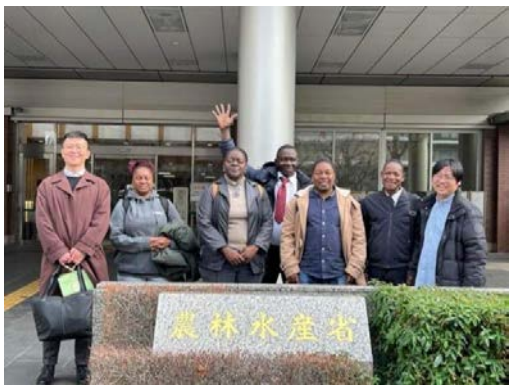
支援センターあんしんを訪問し、分業によって障がいのある方も働ける環境を視察。協働による生産物の付加価値付与についての説明などを受けた。

1 月 19 日（金）

スガノ農機にてバイオスティミュラント資材を活用した乾田直播と土作りについて講義を受け、工場見学を行った。

屋外試験圃場にて伝統的犂をでの馬耕の体験及び改良犂の使用体験を行った。
また日本製の鍬の使用体験を行った。

1 月 22 日（月）



農林水産省に表敬訪問を行った。
研修生から研修の成果の報告、今後の連携について意見交換を行う。

(3)国内研修研修生の所感

参加研修生が共通して特に関心を持った議題は下記となる。

- 日本を訪れることができて良かった。今回は冬に訪れた。農業を知るために稲作の行われている季節に訪問してみたい。
- 農協が直接間接に売り場を確保している。モザンビークの農家は売れるか分からずに作物を作っている。
- 農村金融の必要性を感じている。しかしモザンビークの農家には誠実さが足りない。借りたものを返さないといけないとの意識が低い。
- 農村医療の改善は切実。しかし農業による収益を向上させないと貢献する原資が無い。どのようなことがモザンビークではできるのか。
- 自分自身がメンバーからより信頼されるリーダーになることが大切。信頼関係が農業生産性向上や発展に重要である。

その他、日本の小規模農家に対するイメージが変わったとの意見が多く聞かれた。土地の面積はモザンビークと比較すると日本は一農家の面積が予想以上に小さいことや、全ての作業や農業で先進機械の稼働などを予想していたが、伝統的農法の活用や家族単位での作業が営

まれ、さらに各農家が自ら小さな加工も行いながら、協同組織への参加によって集荷や流通などが行われていることや、作物の栽培や営農理解ではグループでの研修が全国で行われていることなども大いに勉強になったとの意見が上がった。また、今回の研修では中山間地域での研修も実施されたので、僻地における集落ごとの協同や取り組みについて農家から実際に話を聞く機会があり、日本型の農業の協同組合の仕組みやその発展の変遷についての理解を進めることに役立ったとの意見もあった。

5 海外研修

2024 年 2 月、対象団体の構成員等に対して技術移転を行う海外研修をモザンビークで実施した。国内研修を受けたリーダーのほか、畜力について日本から講師が派遣された。

(1) 研修内容

【仕様書項目】

1) 畜力(馬搬・馬耕)技術の有効性

2) 上記技術の実践

3) 農業協同組合活動の基本的な考え方

4) 農家による組織活動、販売・購買事業、信用事業、営農指導、農産加工・6 次産業化の取組等

5) 日本企業との連携の取組

【独自提案】

6) 技術以前に必要となる畜力を利活用するための基礎

7) AIPA 事業で構築されたデジタル化基盤の利活用

8) 令和5年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業の目的共有と連携

(2) 海外研修スケジュール

研修期間:2024 年 2 月 12 日(月)～23 日(金)

日付	活動／テーマ	訪日研修生 ☆:メイン講師	参加者	派遣講師の動き
2 月 10 日(土)	(派遣講師のナンプラ空港送迎)	CRISANTO	-	入国→マプト→ナンプラ泊
2 月 11 日(日)	(派遣講師のナンプラからリバウエへの移動) リバウエ(ナミコニャ)にて畜力確認(ロバ)、ADM 拠点着	CRISANTO	Miguel 氏	ナンプラ→リバウエ